

〔科目名〕 メディアとジャーナリズム	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 河田 喜照 他	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 ・この講義では、マスメディアが、その社会的使命である「ジャーナリズム」をどう実現しようとしているかオムニバス方式で解説する。東奥日報社の記者経験者や広告・販売の担当者らが登壇、現場の情報を通じてメディアとジャーナリズムに対する理解を深めてもらう。 ・青森県の各メディアを紹介しながら、地域社会におけるメディアの役割を考える。 ・ネット社会における情報伝達手段の変化と問題点を指摘し、メディアリテラシーを育てることを意識していく。 ・文化支援事業など地域メディアが果たしている役割も紹介していきたい。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 民主主義社会において、正確な情報を市民に伝達する機能は不可欠である。その役割を担うメディアについての理解は主権者として必要な素養である。一方で、ネット社会の進展により、従来のマスメディアが担ってきた情報伝達の方法は大きく変化している。ネット空間では玉石混交の情報が飛び交い、フェイクニュースと呼ばれる虚偽情報、またフィルターバブル(自分の興味のある情報ばかりが集まる現象)などが問題になっている。かつてないほどメディアリテラシーの必要性が高まっており、その向上に役立つ機会としたい。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 中間目標 ・近代におけるジャーナリズムの成立から現在にいたる歴史を知り、メディアを客観的にみる視点を育てる。 ・新聞社やテレビ局などのマスメディアが果たしている社会的役割を知る。 ・現場の活動を知ること、マスメディアの機能に対する正確な知識をもってもらおう。 ・報道活動が抱える問題点について理解する。 ・Yahoo、Google など巨大 IT 企業によるニュース提供と既存メディアのかかわりを理解する。 最終目標 ・われわれの社会におけるジャーナリズムの機能と問題点を理解する。 ・メディアリテラシーを高め、健全な市民・社会人としての素養を身につける。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 ■		
〔教科書〕 特になし		
〔指定図書〕 特になし。		
〔参考書〕 東奥日報、ホームページ「WEB 東奥」、「東奥日報スマホサイト」「東奥日報アプリ」、SNS など。		
〔前提科目〕 なし。		

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 出席率および最終レポート課題で評価。	
〔評価の基準及びスケール〕 学生便覧の通り: A: 80%以上、 B: 70%以上、 C: 60%以上、 D: 50%以上、 F: 50%未満	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・新聞社やテレビ局など、いわゆるマスメディアの報道活動は、若い世代に正しく理解されていないところが多分にある。メディアに携わる人たちがどんなことを考え、どんな活動をしているのか理解してもらえよう努力する。また Yahoo、Google など巨大 IT 企業への情報提供や SNS の進展の中で起きていることについても説明する。時事的な内容も織り交ぜながら現場の声を伝えていくので、メディアとジャーナリズムについて理解を深める機会にしてほしい。 ・複数の講師によるオムニバス形式のため、都合によって講義の順番が前後することがある。あらかじめ了承していただきたい。	
〔実務経歴〕 新聞記者、デジタル編集者、広告担当者、新聞販売担当者、イベント・出版担当者ら。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(はじめに): 内 容: メディアの意味やジャーナリズムの理念について。国内の主なメディアとその特性を伝え、国内・青森県内の新聞、テレビ、ラジオ、雑誌を紹介。動画を使いニュースができるまでの基本的な流れをつかんでもらう。またネットメディアによるニュースの現状と進展の状況にも触れる。 教科書・指定図書 なし
第2回	テーマ(NIB=Newspaper in Business=実践1): 内 容: 前編～よく分かる新聞の読み方。NIB は学生や若いビジネスマンに役立つ新聞の活用方法を伝える取り組み。初回は新聞の読み方。読者が読みやすいように工夫された紙面づくりのルールや紙面の性格を解説し、楽しく役立つ新聞の読み方を知ってもらう。 教科書・指定図書 なし
第3回	テーマ(NIB=Newspaper in Business=実践2): 内 容: 後編～記事から学ぶ文章術。記者が文章を書くときに、どんなことに気をつけているのか。「定型のワナ」や「原稿を書き上げて安心のワナ」など、経験をもとにした文章を書く上で留意したいポイントを伝える。報告書やレポート作成に役立つヒントを伝えたい。 教科書・指定図書 なし
第4回	テーマ(ジャーナリズムの歴史): 内 容: 近代ジャーナリズムの歴史について。17 世紀のイギリスにおける市民社会の成立と新聞ジャーナリズム。日本における江戸時代の落首や瓦版の考察、明治政府の牧民思想に対する自由民権運動と新聞のかかわり、戦時中の検閲と一県一紙令、戦後のあゆみ。3 権分立とジャーナリズムの役割。 教科書・指定図書 なし
第5回	テーマ(住民に寄り添う地方紙の役割) 内 容: 地方紙は、地域との距離が近いからこそ地域の課題や良さをきめ細かく報道することができる。医療福祉分野で主に取材してきた記者の経験を踏まえ、住民と同じ目線で報道する地方紙の役割の大切さを考える。コロナ報道についても触れる。 教科書・指定図書 なし
第6回	テーマ(紙とデジタル～東奥日報の事例から): 内 容: 新聞社におけるデジタル展開の歩み。Web 東奥から東奥日報アプリまで。デジタル報道の現況。自社サイト、ヤフーなど外部配信、SNS など。新型コロナ報道とデジタル～空前のアクセスが意味するもの。紙とデジタル～「偏りのない情報摂取」のために ほかに。 教科書・指定図書 なし教科書・指定図書 なし

第7回	テーマ(ネット情報とメディアリテラシー): 内 容: フェイクニュース、ディスインフォームーションの考察。アメリカの米連邦議会乱入事件や熊本地震の猛獣脱走騒ぎなどを例に、ネット情報の危うい面を認識する。またSNSの使い方とフィルターバブル、エコーチェンバーなどデジタルメディアを利用する際のワナについても考えてみる。 教科書・指定図書 なし
第8回	テーマ(事件・事故と司法手続き): 内 容: 新聞やテレビで日々報道される事件や事故。報道における大きな分野だが、その取材体制はどうなっているのか舞台裏を紹介する。また逮捕や送検、起訴、裁判など司法手続きを理解することで事件・事故のニュースに対する理解を深めてもらう。 教科書・指定図書 なし
第9回	テーマ(新聞の文化面・生活面は何を伝えてきたか): 内 容: 才能を掘り起こす、応援する、批評する、発表の場をつくる新聞の文化面。東奥日報が伝えた太宰や寺山から、近年の県人作家らの活躍を中心に紹介。暮らしに寄り添う、一緒に考える生活面。コロナ禍で求められたことなど。 教科書・指定図書 なし
第10回	テーマ(スポーツと郷土愛): 内 容: スポーツ新聞はアジアだけに存在するメディア。オリンピック、アジア大会等の世界大会及び国民体育大会、全国高校野球選手権等の国内大会の取材体験を通して、スポーツとメディアが地域にもたらす意義、役割を考察する。 教科書・指定図書 なし
第11回	テーマ(テレビ、ラジオの報道): 日本の放送メディアについて紹介する。放送法第4条の存在による新聞や雑誌、ネットメディアとの違いを知ってもらう。またニュース報道とワイドショー(ニュースを使った娯楽色の強いテレビ番組)の違い、広告で成り立つ民放の構造などについて説明し、放送メディアについてのリテラシーを高めてもらう。 教科書・指定図書 なし
第12回	テーマ(地域ジャーナリズムの役割): 内 容: 地域ジャーナリズムについて考える。ローカル記事の需要と「劇場効果」による共感性。スクープの種類、行政に対するチェック機能を知る。また地元紙が消えたアメリカの地方都市で起きたことなどを例に地域ジャーナリズムの役割をあらためて考える。 教科書・指定図書 なし
第13回	テーマ(青森県と基地): 内 容: 沖縄に次いで「第2の基地県」と呼ばれる青森県。米軍・自衛隊の基地と関連施設は多数に上り、機能は複雑多岐にわたる。新冷戦時代と呼ばれる中、その実態を説明するとともにマスメディアがどのように報じてきたのかについて紹介する。 教科書・指定図書 なし
第14回	テーマ(ジャーナリズムの問題点とジレンマ) 近年、報道に対する市民の目線が厳しくなっている。有名な「ハゲワシと少女」の写真をめぐる議論などを例にジャーナリズムが抱えるジレンマについて学ぶ。また政治的スタンスの違いと報道、集中報道への批判、実名報道と匿名報道、記者クラブの役割など、報道が抱えるジレンマ、問題点について考えてもらう。教科書・指定図書 なし
第15回	テーマ (おわりに) ジャーナリズムが守るもの。ジャーナリズムの展望。 教科書・指定図書 なし
試験	課題リポートを課す